

**目的：** 住居領域は既習学力において男女の能力差が少なく、共修教材としては扱いやすいと考えられる。生徒の関心が深い身近なテーマで、近未来の自立生活に直結する題材である「ひとり暮らしのすまい」を取上げ、住居学習としてのプログラムに構成し、教育現場での指導効果を検証した。本プログラムの目的は、この題材によって住宅一般の選択基準や住宅環境を知り、生活の基盤としての住居に対する意識を高めさせると共に、ワンルームのインテリア計画を手がかりとして、室内設計の能力と関心を育てることにある。

**方法：** 教材として、「ワンルームへの旅立ち」「すまいの選択」「賃貸に関わる金銭」のビデオ教材3本と資料教材（ワンルームマンションパンフレット、写真集、1/50住宅平面図と、1/50家具平面図）を作成し、5時間と4時間の2つの指導計画案を作成した。これを徳島県の高校現場において1年生男女12クラスと、2年生女子12クラスにおける授業によって、その指導効果を検証した。

**結果：** 住生活についてあまり関心のなかった高校生でも、このプログラムの実施によって、住居に対する関心や自分の部屋に対する意識が明らかに高まった。中でも、当初はあまり興味を示さなかった1年生や男子において、その改善の度合いが著しい。ビデオ教材は住生活を教室内に映像として再現する効果と共に、生徒の興味を開発する上で強力な手段となり得ることがわかった。住宅選択に際しては、条件を多角的に検討し、総合的な見地から住宅を考える態度が育てられた。家具配置の演習は、男女ともに興味を持って意欲的に取り組んでおり、適切な教材となることが示唆された。